

JUKI

工業用電子ミシン
アタッチメント

形名

MP-G10-TS

MP-G25-TS

MP-G40-TS

MP-G50-TS


技術資料

上糸切れ検知装置

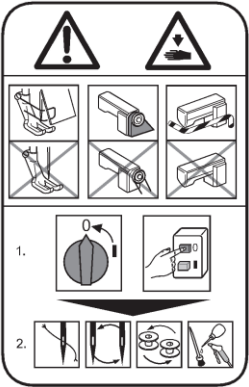


安全にご使用いただくために

据え付け、運転、点検の前に「安全にご使用いただくために」および取り扱いの説明をよくお読みください。また、別紙技術資料「ミシン頭部編」「制御装置編」「操作パネル編」についても本技術資料には記載されていない注意事項がある為、そちらの資料についてもよくお読みいただいた上で、正しくご使用ください。

安全表示についての説明

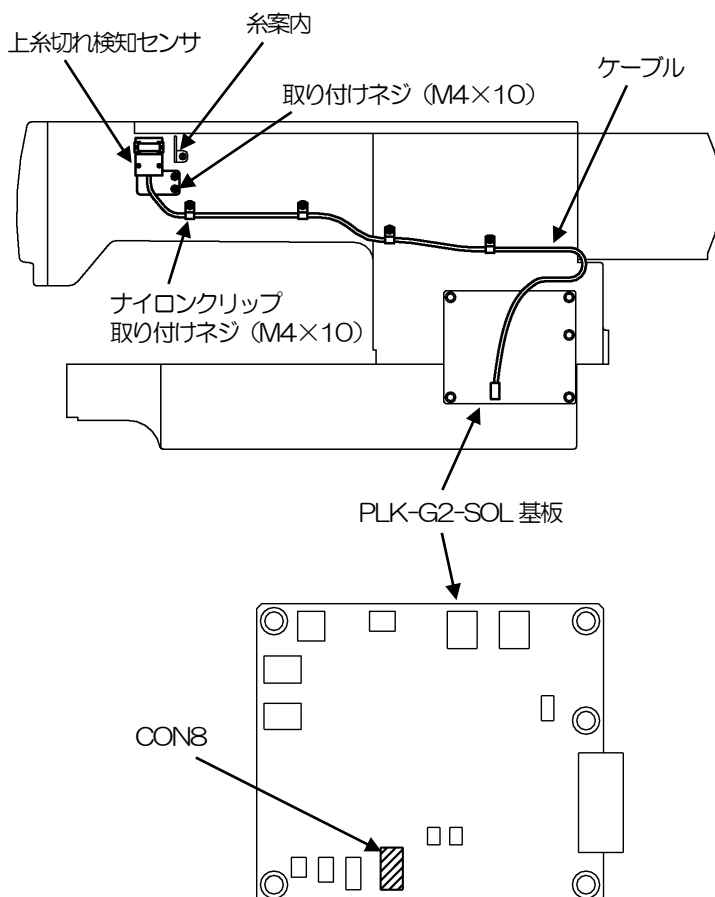
	注意	「注意」とは回避されなければ軽傷または中程度の傷を負う可能性が想定される項目に表示しています。ただし「注意」と記載した項目でも、場合によっては重大な結果に結びつく可能性もあります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
---	-----------	--

警告表示についての説明

No	警告表示	警告表示の内容
1		<p><u>ミシン操作上の注意</u>：</p> <p>安全装置取り外し禁止と、電源を入れた状態での縫製以外の作業の禁止を通告しています。</p> <p><表示の意味></p> <ul style="list-style-type: none">・ ニードルガード、アイガード、ベルトカバー、その他の保護装置無しにミシンの操作をしないでください。・ 糸通し、針やボビンの交換、掃除や給油を行う時は、電源スイッチを必ず切ってください。
2		<p><u>指のけが注意</u>：</p> <p>特定の条件において、指(手)の傷害の可能性あることを通告しています。</p>
3		<p><u>指を挟まれないよう注意</u>：</p> <p>特定の条件において、指が挟まれることによって起こる傷害の可能性あることを通告しています。</p>

1. 取り付けおよび配線方法

- (1) 検知センサを右記に示す場所に付属の取り付けネジ (SW-PW プラマイナベネジ M4×10) で取り付けてください。
- (2) ケーブルをマシン頭部側面に押え等に引っかからないように、付属のナイロンクリップ、取り付けネジ (SW-PW プラマイナベネジ M4×10) を使用してしっかりと固定してください。
- (3) 糸案内を取り外してください。
- (4) P 板カバーを取り外してください。
- (5) ケーブルのコネクタは、ソレノイド基板の CON8 に接続してください。



CON8 の ピン番号	信号名	リード線色
1	+12V	赤
2	I6 (THS)	茶
5	0V	白

- (6) P 板カバーを取り付けてください。

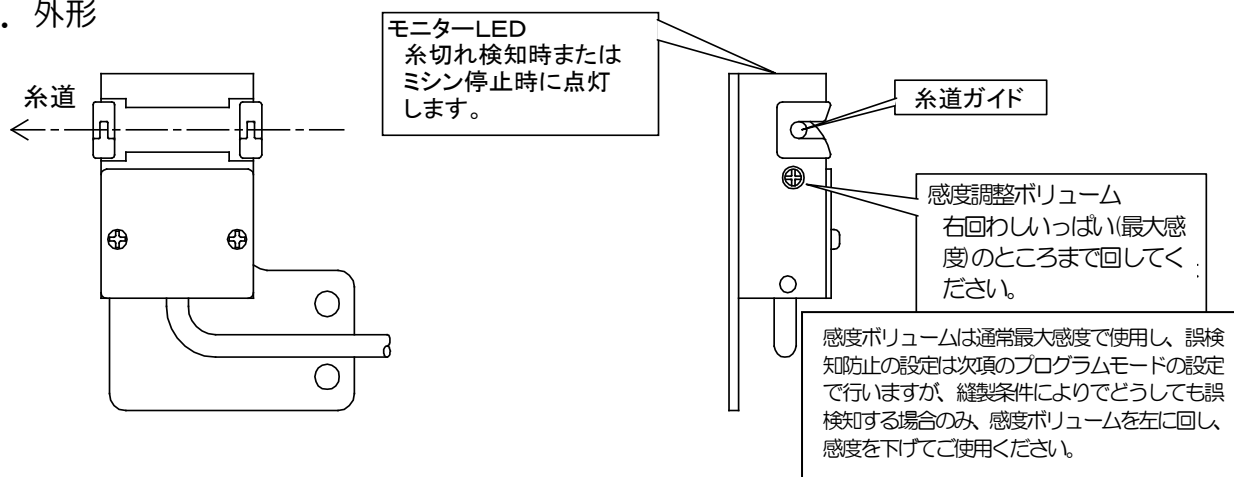
注意！！

1. 取り付けの際は、必ず電源をOFFしてください。
2. 外部の振動、衝撃等により不良動作を起こし易くなりますので、取り扱いには十分注意してください。
3. センサにマシン油・糸くず等が附着しますと正常動作しないことがあります。
特に、油はセンサのショートの原因となります。

*サービスパーツとして下記の部品をご注文される際は、部品コード(M9******)でご指定ください。

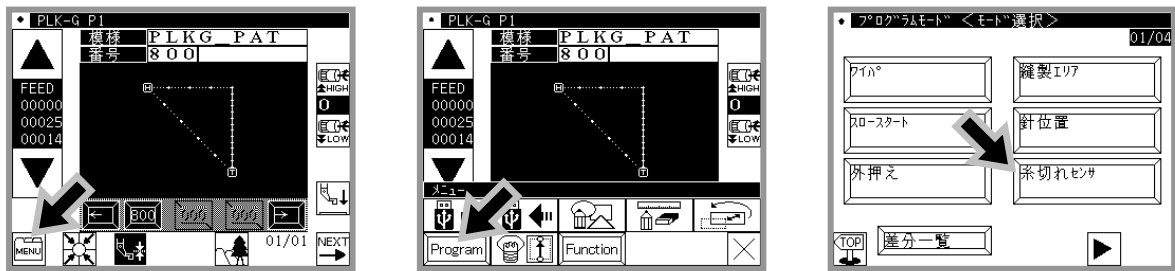
部品コード	部品名	使用数量
M94003099	ナイロンクリップ	5
M91056004	SW-PW プラマイナベネジ M4X10	7

2. 外形

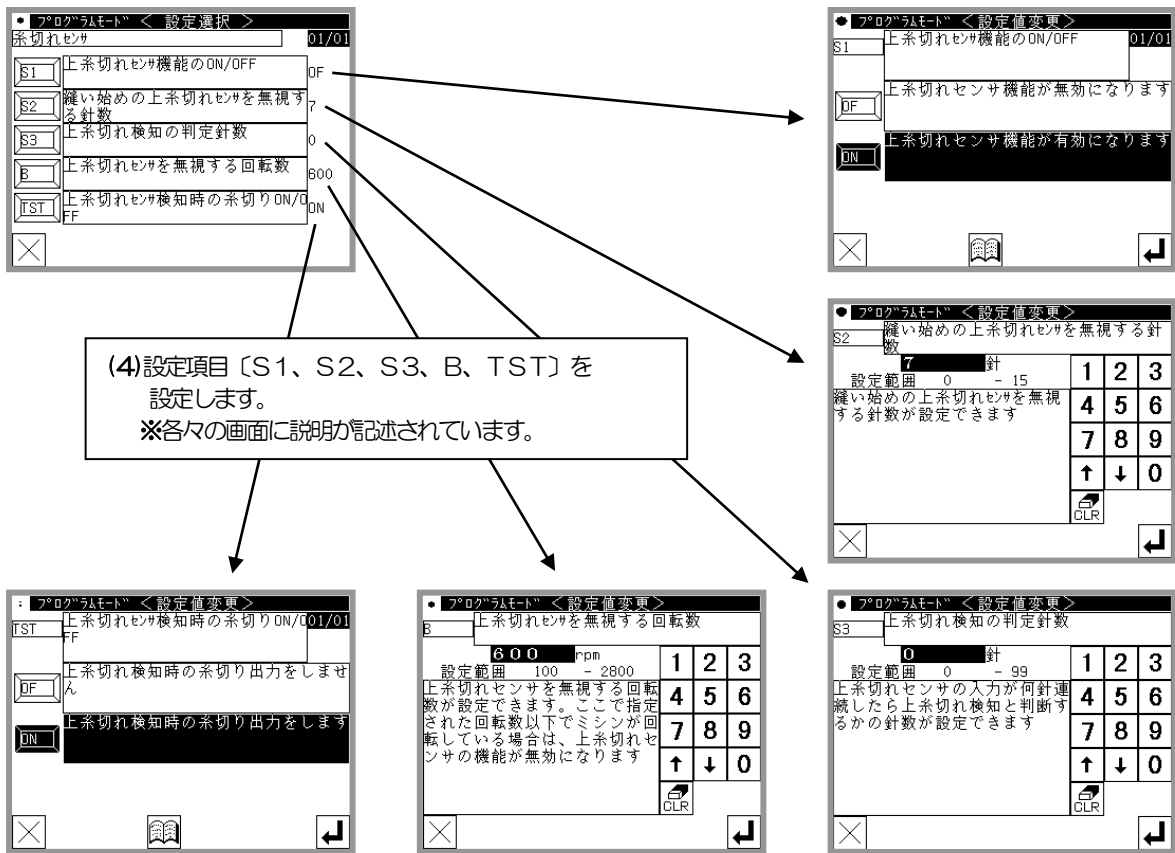


3. 操作（設定）方法

下記の要領で上糸切れ検知センサの設定をしてください。
 （プログラムモードの「糸切れセンサ」の設定を行います。）



- (1) 標準画面の **MENU** を押します。 (2) メニューの **Program** を押します。 (3) プログラムモードの [糸切れセンサ] を押します。



4. 設定値の目安

通常、細い糸ほど誤検知しやすくなりますので、各設定値を大きくする必要があります。
 また、同じ太さの糸であっても、糸の種類や色、縫製物、縫い目の長さ等、様々な縫製条件により最適な設定値が異なります。
 設定値の目安は、以下を参照してください。

(1) 上糸切れセンサを無視する回転数 [B]

高速で縫製していると、糸切れセンサのLEDランプはOFFし続けます。
 縫製速度を下げていくと、LEDランプが1針毎にON/OFFを繰り返し始めます。
 ここまでが、正常に糸切れ検知できる縫製速度です。

通常上糸切れセンサを無視する回転数 [B] は、このときの回転数以上に設定してください。

JUKI 株式会社

この印刷物は、2022年7月の発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

2022年7月作成

Printed in Japan